



リステラス星圏史略
古資料ファイル 5-?-?



「リイナと奇妙な海賊船」

(発掘整理一旦完了)

霧樹里守 is 土岐真扉

(リーナは女ゆうになりたがってる女の子。) (小6)

(これは、西暦二〇〇〇年の話し) (小6)

2016年7月15日 リステラス星圏史略 (創作)

リーナは女ゆうになりたがってる女の子。

ある日ほんものの海ぞくを、ロケとまちがえついでいってしまう。

ところが、海ぞくの親分(ボス)アドルフと愛しあってしまったから一大事。

七つの海を かけめぐる海ぞくたちといっしょにリーナは古里、スペインのリスボンに、帰り、

ぶじ、両親を ときふせてけっこんし、しんこん旅行は海ぞく船で、世界一週する。

そしてそのまま女海ぞくになってしまう。

(※「世界一週」...「ママ」です...w)

www (^◇^;) www

これ...「週刊マーガレット」の「漫画の原作募集」(200字以内)に、応募したやつだ...ツw

ww

「こんぐらかった 海賊船 !!」 (中学)

「こんぐらかった 海賊船 !!」 (中学)

2016年8月31日 [リステラス星圏史略 \(創作\) コメント \(1\)](#)

書きおろし コメディ・ロマン... ♪ ... 連載第一回

こんぐらかった 海賊船 !!

その1 ... 6月10日

わたし、リオネイナ・ユリィヘルン。

日記をつけるのは大っきライ。

でも今日みたいにとんでもない事のあった日には、何か記録を残しておかないと、後で自分の正気を疑う事になるわ。

案外、あとで体験記として出版したりしたら、ベスト・セラーになったりして...

女優志望の人間にとっては、ネームバリューがあるというのは、役をつか、...じゃないテに入れる...違った。役をもらう。(かな?) 際に、非常に有利な条件になります。 ...あはん。

とにかくまあ最初から始めましょう。

本日正午づけ。食卓で始まった父者人(ててじゃびと)との大ゲンカは、なんと延々三時間にも及び、(ここんところ毎日だわ!)

メイド達が皆あきれて昼寝(シェスタ)に行ってしまったから、ずっと努鳴サ... ちょっと待ってね。辞書を引くから... 怒鳴りあっておりました。

誓って断言するけれど、わたしの片意地と大声は、絶対に父親かたの血統よ。

それを棚に上げて貴婦人らしくないなんて言われたって...!



知るもんですか!!

* * *

「まあすてき。"ローマの休日"みたい。」

あたし、リオネイナ・ユリィヘルン・デュ＝カタルナ。貴族の娘よ。もちろん。」

.....なんてね。今あたし、赤ちゃんの靴下、編んでるの。

リイナと奇妙な海賊船

—四月一日 エイ—

.....

あたくしの思考は完全停止、もうにっちもさっちも行かなくなってしまった。...そこは、袋小路の行き止まりだったので。

追手たちの、総勢百人にも上る...ているように思われた...混乱した靴の音が、直ぐ曲がり角の向う側にまで迫っている。

万事休してしまったのだわ、あたくしの折角の逃避行が。

夢も。希望も。...

...またあの暗い陰鬱な日々。

そして、いつか来るだろう、お父様の言うがままの冷たい政略結婚...

暗く湿った裏小路で薄汚れたビルの外壁にもたれかかりながら、ズルズルと膝の力がだらしなく抜けて行ってしまったからと言って、それは何もあたくしが弱い所為(せい)じゃない。

ふっ...と、一瞬、自分の意志には反して精神活動が停止してしまっていたようだった。

「Hey! Come on! Harry!!」

不意に。頭の上から、かなりくだけた発音の英語と共に、極く細い縄梯子が一条降って来た。それから、同じ声で、



「急げっつってんだよお嬢さん!! あと三十秒で敵さんこの小路に入っちゃう」

日本人（ヤパーン）。

聞き覚えのある声。

あたくしは... はしたないお話だけれど...

とっさの間にスカートを膝の上までたくし上げ、かかとの取れたハイヒールも何もかもをかなぐり捨てて、その縄梯子を頼りにしてビルディングの壁をよじ登った。

0

やはり、話の筋をはっきりさせる為には、コトの起りから順序立てて書いていった方が良いのでしょーね。だろーうと思う。あたくし、現在家出中。十六歳。

本名、リーナこと、リオネイナ・ユリィヘルン。こと、~~あたくし~~の

このとんでもない冒険行が始まったのは、その日から丁度二週間前の昼下がり...

☆ 四月一日 エイプリル・フール

昼寝（シェスタ）の時間だった。

人気（ひとけ）のない港を見降ろす、春たけなわの丘の牧草地を下って、あたくしはただあてもなしに歩き続けていた。

ギラつく太陽。 熱い砂。

狂い咲きのひまわり。

渴ききったほこりと海の風。

...そんなものが交互に入り混じって、あたくしの心に拭きつけて来る。

無論、午後のこの一番陽差しの強いひと時に日傘もヴェールも、ましてや従女の一人もなしに表に出るなどという事が、まともな...それも名家の...子女の正気の沙汰だとは思ってもいない。

それでもあたくしはやはり無目的に歩いて行き、やがて静まりかえった港の一角に出て、そこで意外...としか言いようのないものを、八件した。

~~...海賊船...!!!?~~

~~正直言ってあたくしは目をむいてしまった。~~

始め、優雅に帆を広げたまま出港準備を進めている帆船を目にした時には、どこぞの有閑人が退屈しのぎに浸かっているものかとも思って、たいした注意は払わなかったのだけれど...

(海・賊・船？)

正直言ってあたくし、目をむいてしまった。

メインマストの望楼の上でいかにもそれらしくはためいていたのは、まぎれもなく、あの有名な、どくろと骨のぶちがい...海賊旗（ブラックジャック）。

まあ、何の変哲もない昼下がりの港の石だたみの上に、いきなりこんなものを停泊されては、驚くな、と言う方が無理な話。

...でも、これ、.....現実なのだわね。

たっぷり三分間は痴呆馬鹿のように突っ立っていてから、ようやく... という感じであたくしは気をとりをおした。つまり。

（ああ。要するにこれ、ロケーション用ですね）!!

今にして考えれば、あそこでそんなにも理性的、かつ常識的なものの考え方をしてしまったのが、...全てのコトの始まりだったのですけれど。である。

とにかくにもその頃、まだ十五歳で、ただひたすら女優になるんだと夢ばかりを描いていたあたくしは、それ以上深く考えもしなかったあたくしは、船積み作業のまっただ中へ歩み寄って行った。

教訓： 早や飲み込みは事故のもと。

「リイナと奇妙な海賊船」 2 (中学)

2016年9月1日 リステラス星圏史略 (創作)

シーンNo.1

青い空、青い海。

潮に洗われてすっかり白くなっている、古びた石畳の港のはずれ、
ごく閑静なありふれた倉庫街の一角である。

現代的な服装（ラフなジーンズスタイルやツナギの作業着、サングラスなど）の、
いずれも個性的な若者たちが十数人、
にぎやかに笑い合いながら整然と荷の揚げ降ろしに従事している。

船は三本マストの大型横帆船で、出港が間近らしく既に半ば以上の帆を揚げている。

みがきこまれ、ニス行き届いた、茶色く輝く滑らかな船体。帆は白に近いベージュ色である

。

そして、メインマストの頂上には、船の明るい表情に染められたのか、どこか豪快な感じの
する、

風にひるがえる海賊旗。

そこへ、どうしたものかこの陽射しの中を傘もささずに、単身、
優雅なものごしで一人の少女が割り込んで来る。

（少女、若者たちの指揮をしているらしい青年の一人を捕まえ、飛び切り愛想のいい笑顔で、
風に吹きつけられる髪を手の平で押さえながら、高慢に）

あたくし： ご苦労ですさまね。絶好の航海日和りではなくって？ あたくし、あなたがたの監督にお目にかかりたいの。取り次いで下さらない。

（青年、けげんそうに目を細めてしばし相手を見つめ）

青年： ****

(字幕スーパー：「君は？ 確か前に会った事はないね。」)

あたくし： あら、言葉が通じないなんて。「△△△△△」。

(字幕スーパー：「では日本語は？」)

(青年、わずかに意味が解ったらしく、首を振って)

青年： No, I'm Sorry.

...それでようやく彼が英国人らしい事は解ったのだけれど、あたくし、英語はyesとno以外は一切駄目。って、解るのは学校で習った程度。それも、かなりひどい。

何とか片言のフランス語と手振り身振りで話を通じさせようと四苦八苦していると、何を誤解したのか、彼は流暢な仏語をならべたてながら、気持ちよく帆船の中をあちらこちらと見せて回る。

結局最後には再び渡り板のすぐ近くまで引き戻されて来てしまった時に。

有り難い事には仲間の誰か一人が声をかけて来、あたくしは渡り板をさし示して何か言い置いて行った彼から、一人、甲板に取り残されたのだ。

正に絶好のチャンス到来。まさかあたくしが、このまま大人しく船を降りてしまうなどとは...思われないでしょうね？考えられない。

それで、あたくし、もう一度一階まで引き返して行って、使われていない小部屋の中へ、潜り込んでしまった。

...

なんであたくしがこんな真似.....密航.....をしたものか。

話の筋が見えやすいように、まず、それを書いておくのが当然でしょうね。おこう。

あたくし、実は俳優志望。だったの、~~(と書くと今はあきらめたように聞こえますけど)~~一度でいいから撮影現場なるものを是非とも実地に見たいなあと思っていました。ついでに言えば、その頃、自分にはチャンスさえ来れば、絶対に大女優になれるだけの才能があるのだと... 今にして思えば頬が赤くなってしまうような、実に空怖しいお話だけれど... 絶対的な自信を持っていたのよね。

だから。あわ良くば何かアクシデントで代役が必要になった時とかに出て行けばって、監督に自分を売り込んでおけるかも知れない。おこうという魂胆。

小さな部屋の中で出港を待ちながら、あたくし、いつの間にやらぐっすり眠りこんでしまったらしかった。

...

目覚めると、そこは見知らない小さな粗末な部屋。なのだ。丸い真鍮枠の窓。鉄パイプ製の寝台。

静かに伝わって来る、船首が波を切るかすかな音と、繰り返す緩やかなうねり。

(ああ、そうだったわ。あたくし、あの船に密航していたのでしたっけ)

...静寂。

窓は結構大きいのに、部屋の中はかなり薄暗い。

時計を見ると... 五時を回ってしまっている。

あら、ら、あたくしったら、四時間以上も眠り呆けてしまっていたわけですか？

(大変!! ロケーションは!?)

そこであたくしの頭はかなりはっきりして来て... 寝覚めの良し悪し云々の事ではなく、ここ

数日続いていた、昼は悪夢、夜は、お父様と口論して徹夜の生活のせいで、かなり強度のノイローゼを呈していた、病的・幻覚的な精神状態から。

えっ……?!

まずあたくしは思い出しましたわね。

昨日... 気がついたら、五時というのは夜ではなく翌朝だった... あの青年に案内して預いたくれた時に見た、船内外の風景。

船内のどこにも、ロケーション用の映画機材など見られなかった事。

積み込んでいた船荷の大部分がも、どう見ても長期間航海するつもりらしく思われるだけの大量の食糧だった事。云々ぬん。

そして。とどめにあの海賊旗。

まさか大時代的に、昔ながらのあの海賊さんって事もないのでしょうか、とにかく映画のロケーションなどという気楽なものでもないのは確か。(みたい)

それに...

それにですよ、あたくしの数少ない船遊びの経験から言っても、この船、今現在かなり速いスピードで走っている筈。

もしも出港したのが昨夜のうちだったとすれば、ああ、ですよ。

我が国のごく狭い領海などんてもの、とっくに抜けてしまっているのではなくって!?

最初のショックから立ち直った後、あたくしは無邪気にも、と言うか無責任にも、と言うかとにかく手を打って喜びだしてしまった。

だって、あまりにも良くできすぎていて、まるで本当の物語の中へでも紛れこんでしまったみたいではありません?

ワクワクする、夢と冒険の一大ロマンス!!

~~あたくしがこの時、あまりにも単純に過ぎる程の反応を示してしまった事に関しては、一応、自己弁護を試みる必要がある。(だろうと)思う。させてもらう~~

我ながら、この時のハシャギようはちょっと正常とは言い難かったなあ、とは、思う。でも、ですよ。

あたくしにだって一言、いい分はあるのかわ。だって、

なぜって、あたくし、家出したいという願望は前々からあったわけですよ。

ただお父様の権勢と情報力を考えに入れると、どう綿密に計画した所で捕まって連れ戻されてしまうのが明らかだったからこそ、半ばあきらめていたdけで。

でも、だけど、自分でも行く先が解らないような、突発的な脱出行。

それも、海。国外。

これならば嫌でも成功してしまいそうじゃなくって!? ...

「いやーっほーっほーっ!!」 ...とと。

だめねー、あたくし。一人でいると、どうもすぐに本性が出てしまう。

この分では当分、社交界一の貴婦人になんて、なれそうもない。

もっとも、まだデビューしてもいないのだけれども。

.....さて。

それはそれで良かったのですわよね。密航した船の一室で、現在の自分の状況について分析して楽しがっているというのは。

だけど世の中そうとんとんと話が進んだらば何の苦勞だってないわけで...

早い話しが、あたくし、気が抜けた途端にかかってしまったのだ。

そう。船酔い。

それでも始めのうちは結構どうって言う程の事もなかったのよ。で、そのうち治まってしまうだろうと高をくくって、気分転換にと狭い室内でバレエのレッスンを始めたのが.....逆効果だった.....。

貧血起こして目は回るし、胸がむかついて、吐き気がする。鏡があればきっと顔は真っ青だっただろう。

風が入れば少しはましかとも思ってやっとの思いで窓際までに移動したのだけれど、開かない。

どうして!?

もう一度なんとかベッドまで戻ろうとは思ったのだけれど、我慢できなくて、あたくしはそのままほこりの積もった床の上に丸くなってしまった。

「リイナと奇妙な海賊船」 没 (中学)

「リイナと奇妙な海賊船」 没 (中学)

2016年9月1日 リステラス星圏史略 (創作)

~~涙が出そう、こぼれそうになる。ところを、なんとか自分で自分の頬をひっぱたいて、止めさせる。~~

~~(だらしたなくてよ、リオネイナ！ 考えてもご覧なさい。あなた、いくらノイロゼとヒステリーとで食欲が無いからと言って、昨日よ。昨日の朝っから何(なん)にも... 日だって日にしてないんじゃないの。その前だって、お父様に居絵へ呼び帰されて以来、ヶ月このかた満足に眠った事もない。それでいて急に、しばらくサボっていた朝の運動を復活させたりしたら... どうなるかくらい最初っから解っていて良さそうなものよ！ あなたが馬鹿なんだから、)~~

~~待っても待っても良くなる。~~

~~どころか吐き気に限ってはむしろエスカレートする方で、~~

~~う。~~

~~もう無理だわ。我慢できない。~~

~~...あたくし、もう殆ど真っ暗になりっぱなしの視界で何とかドアと鍵を探し出し、かろうじて、という感じで体を部屋の外に押し出す。~~

~~その時には家出の事も密航の事もすっかり頭から抜け落ちてしまっていたのだけれど、幸い、薄暗い廊下には人影もなかったらしい。~~

~~なんとか急な階段をはい上って後部甲板のはずれ手すりに取りすがるまで、あたくしは誰にも邪魔される事なく済んだ。~~

~~吐かなければ、と思うのだが、空っぽの胃袋からは何も出ては来ない。~~

~~全世界の空気がなくなってしまうみたいで、必死で胸の辺りを捕みとるようにする。~~

~~と、既にさっきから赤黒い点張りになっていた世界が、今度こそ、はじけて真っ暗に変わ~~

~~った。~~

~~どきっ... と言う、自分自身が床に倒れる音が、かすかに聞こえたようにも思う。...~~

~~—○—~~

~~微風。涼しい影。帆布（キャンバス）が風にはためく、単調で優しい、眠気をさそう音。~~

~~辺りを包む潮の香と、船首で波を切る、細かく泡立つような響き。~~

~~まだ少しばかり目が回るような感覚が残ってはいたけれど、気分はずっと良くなっていて、結構にぎやかな海のうねりも、もう殆ど気にならなかった。~~

~~今あたくしが横たわらされている所は、どうやら後部甲板の、一段高くなった上の舵輪のそば。~~

~~丁度帆が陽差しをさえぎっている所で、涼しい。~~

~~少しばかり離れた所に十数人の男の人達が集まっているらしいけれど、あたくしを起こさないようにとの配慮からか、騒ぎはあまり大きくない。~~

~~ただ、目を閉じたまま聞いていると、どうやらあたくしに船の申を案内したあの青年が困った立場に置かれているようで、しかたなく、あたくし、まるでたった今自然に気づきましたと言う風な呻き声を上げながら目を開いた。~~

~~「Oh! Hey, girl! ****」。~~

~~「...は、ハロ。」~~

~~...こになると、話しが通じないと言うのもかえって有り難い。船員たち...別に海賊っぽくも見えない... が交互にWHOやらWHYやらを浴びせかけて来るのを一切、~~

~~「???」の一手で誤魔化して、後はただひたすら無邪気に微笑んで差し上げる。~~

~~と、面白い程良く引っかかったので、必要以上にたどったどしく、~~

~~「アイ、ウォント、サムシング、トクウ、イート!!!」~~

~~...恐怖の義務教育受けてたって、三年もやっていればァ、このっくらい、しゃべれますのよ。~~

注：ここまでの所、主語三人称に直し、イントロとする。

なるたけカラッとした調子を出すこと。

日記体で、密航発覚の所から。

四月三日 ... 密航発覚

つ、遂に見つかってしまった!!

...でも、何も心配する事は無かったまうだみたい。

案じるより生むが易し。以前としてこの船の正体ははっきりしないのだけれど... いえ、まず今日起ったでき事をきちんと書き留めておこう。

本日午前十時、なぎの為かしばらくは全然動いていなかった船が、いきなりかいを突き出してこぎ始めた! ...ガレー船ね、まるで。

いよいよもってこの船、怪しい。

やはり、本当の本当に海族船... いえ、海賊船なのだろうか?

未だに岸沿いに進んでいるようなので、出るに出られない。昼朝食後、もうすっかり手慣れて残り物を泥棒に行き、ついでに置き忘れてあった電気湯わかし器とカップ、本を一冊、無断拝借して来てしまった。

~~一本は日本語で、どうやらこの船には日本人も乗り組んでいるらしいと知ってほっとする。何故って、あたくし、母国語を除けば日本語だけですものね、まともに話せるの。~~

~~言葉がまるで通じないようだったら、イザという時に困るではありませんか。~~

~~ところが...~~

...ところが。

安心して窓辺に腰かけて優雅に読書など楽しんで（別に本そのものは通信技術か何かに関するもので面白くも何ともありはしなかったのだけれど、とにかく退屈していたので）いると、昨日... 正確に言うと今朝10時20分までは人っ子一人通る気配も無かった、あたくしの部屋の前を通じるの廊下、そこでいきなり数人の話し声が響き始めた。

事実、心臓に良くない経験だったわね。これは。

彼らは... 例のごとく英語で、だけれど... しきりに「リーク、リーク」だとか「エレクトリック...」「スイッチ・オン・ザ・ライト」とか言いかわしつつ、一部屋ひとへや廊下の両サイド側に並ぶ部屋を点検している様子。

しまった!!

と、思ったわね。彼らが電気系統の調査をしているらしい事は、会話の様子からすぐになんともなく解ったし、あたくし、昨日からずい分電燈使いましたもの。

多分、彼らは配電盤か何かで、使われていない筈の区域に電流が流されているのを知って、漏電の可能性をでも懸念したのでしょうか。

さて。

.....俗な表現で言えば、ヤバイ!!

向うは一部屋一部屋確実にあたくしの方へ近づいて来るし、とっさに本や湯わかし器はベッドの下へ放り込んだものの、さてあたくしは!?

窓は開かないんだし、逃げる所が無いじゃありませんか！ !! !!

ひたすら !! !! !!

...あたくし自身もベッドの下へ潜り込んでしまえば良かったものを、気づかなかったとは不思議。

だけれど今さら愚痴をこぼしても仕様が無い。

とにかく、オロオロ頭抱え込んでいる暇に、あたくしの部屋のドアは開けられてしまったのだったから.....。

「 ! !? 」

まあ、向うもあせったのでしょうかね。

漏電の点検に来たら、無人の筈の部屋の中に人がいる。

それも、女。飛び切り若い……。

「 Who っ!! What are you ?! 」

…言いたい意味は判る。

だですけどねえ、 what とは何事、 what とは !

あたくし人間、人間は " Who are you ? " である事ぐらい、いっくら文部省の学習指導要項に従っていた所で、三年間も学んでいれば、そのくらいの区別はつきますのよっ!!

…と、しっかり考えて立腹できたのは、ついぎっき先刻ようやく一人になれて落ちつけた時。とにかくその時はひどく動転していたのだし、とにかく何か一言、挨拶を反さなければならぬと…

(アイ、アム、ア、密航者? まさかね。)

密航者だなんて非俗な単語名詞、あたくしが存じ上げてます訳がないあって?

" I'm sorry. "

思いついたうちではこれが一番簡単だったけれど、何処か罪の意識も無いのに謝る言葉口にするのでは、抵抗がある。

で、結局、あたくしが開口一番話した事と言ったら、

" Good morning, everyone. How are you ? "

…だった。

あの人たち、さぞかし、あきれていることでしょうねえ……。

そこから後しばらくは、もう実に典型的な海洋映画のワンパターン・シーンだった。

つまり、慌てふためいた様子で船長はじめ水夫長（ボースン）やら何やら上品上等そうな連中が呼んで来られ、家出・密航人の尋問をするの図。

彼らは結構礼儀正しくて紳士的だったけれど、明らかにずい分困り果てている様子。

会話は全て、片言のフランス語v.s.しどろもどろの英語...で、意味不通のことおびただしい。

お互い話している方と聞いている方が、互いに自分の言語を理解あやしげな話し方、効き方wしている訳なのだから、あれで通じればかえっておかしい。

疑ふらくは、あたくした話したしゃべった中で正確に相手に伝わった話、名前と、疲れた、お腹が空いたの三言だけなのではないだろうか。

向うの話であたくしに理解できたのは、今すぐつまみ出されはしないだろうるわけではないらしいという事と、「明日まで待て」という一文だけ。

あ、あ、学校英語だなんて、習うものじゃないわね！

2016年9月1日 [リストラス星圏史略 \(創作\)](#)

四月四日 ... !! !! 再び !! !!

朝、目が覚めると、ライト机（デスク）に突っ伏したまま、着替えもせずに寝込んでいたのだった。

ここは、また昨日までの第三層にある割方居心地の良い、上等な部屋。

あたくしは一応、軟禁の身の上。

昨夜聞いた、あの「明日まで待て、」という言葉はどういう意味なのだろう？

つらつら考えている内に、お迎えが来た。

彼、さきおとといに、あたくしに船の内部を案内してくれた人。

マイケル・ロジャーと言う。フルネームは知らない。

困ったの最上級といった目であたくしをながめるものだから、あたくし、つい反抗して、無邪気そのものという振る舞い。

少々意地悪をし過ぎてしまったかも知らない。悪い人では無いのに。

朝それで、朝起きて、室外に連れ出してもらって、一～二時間して... だから、八時、うん、九時前頃。船首楼にあげてもらっていたあたくし達、つまりあたくしと、女密航者を見物にやって来た物見高い乗り組み員たちは、進路前方行く手の浦の影に、停泊中の豪華...と言って良いのでしょうか...大型荷客船を見出した。

船はそちらへ寄って行くと。

...え？ 何よ、何ですの、これ～～～!!

と言った調子でまるで状況が理解できずにいるままに、あたくしの乗っていた船の三本マストが次々に折り畳まれ、格納されて行く。

そう、まるでラジオのアンテナでもあるかのごとき要領で。...

おまけにあらう事か。行手に見える純白の荷客船の船腹が徐々に開き始め...

上開きにすっかり開ききってしまったその瞬間。

こちら側の船が、

.....跳んだ。

え!! え!! 何ですか。これ、海洋冒険ロマンスではなかったの!

これでは、まるで、S.F.の世界...!!

等と騒いでいるだけの暇も実際には無かった。

いきなり船腹下部からジェットの噴射を始めたこちらの帆船、すぐさま帆のない帆船は荷客船の横腹に開いたハッチの上へ跳び上がり、そのまま駆動して船腹内に滑り込んでしまう。

ハッチが閉まり、船の外が闇黒の瞬間になる一瞬。

それから...

「*****!!」

あんまり早口で威勢のいい調子だったからまるで聞き取れなかったのだけれど、まあ、おそらくは

「お帰（けえ）りなきい！」と、でも言っていたのでしょうね。

明らかにマイクロフォンを使っただけの会話だとはっきり解る音声で、後部の操舵室から愉快げな

挨拶が聞こえてくる。

好奇心にかられたあたくし、付きそい兼見張りのマイケル・ロジャーが引き取めようとするのをころりと無視して、操舵室にまで走っていった。

と。

...もう、いい加減コーテーションマークを飛ばすのもいやになる位。

外見（そとみ）は大時代的古式豊かな伝統に乗った海賊船。

実はその内部は...

あ、もう駄目ですね、これは。

完全にSF。

銀河鉄道999の世界...。

完全に毒気を抜かれ、あ然としている内に、あたくし、慌てて飛んで来たマイケル・ロジャーに連行される恰好で、司令室と覚しき部屋まで引っぱって行かれた。

その間、約10分。

やまとみたいに動く歩道をでも取り付けたら良いのじゃないかと思う位、船内が広い。

リステラス星圏史略
古資料ファイル
5 - ? - ?
「リイナと奇妙な海賊船」

<http://p.booklog.jp/book/109410>

著者：霧樹里守 is 土岐真扉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/109410>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/109410>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ